



コンさる君の

# 今日も視界良好

## ⑤ 知識を増やし、考えることが心地よい 中小企業診断士 長尾 康行



皆様、こんにちは。(株)フラッグシップ経営代表、中小企業診断士の長尾です。  
毎週日曜日の日経には「NIKKEI The STYLE」という別冊が入っているのをご存知でしょうか。芸術や流行などを発信している別冊でして、写真も綺麗で私は毎週楽しみにしています。ある日曜の朝、その日もいつものように何気に記事を斜め読みしているとクロスワードがあった事に気が付いたのです。妻と二人で軽い気持ちでチャレンジしてみると、これが難しい。いや、私にとっては難しいを乗り越えて不可能というレベルの難易度なのです。毎回20くらいの単語を導きださないといけないのですが、二人がかりでも4つか5つ程度が関の山です。私と妻の知識量の有無もあるでしょうがとにかく難しい。まず、クロスワードを説くためのカギが難しくすぎます。「英の理論物理学者・ディラックが導入した、○○○関数」や「日本書紀から日本三代実録までの朝廷で編集された6つの史書をさす言葉」が与えられたカギです。このように私達夫婦の知識量では解けるはずもないクロスワードにチャレンジするのが毎週の楽しみになっています。結局は途中でギブアップするのがお決まりなのですが・・・。

日曜の朝から活字を読む、考える、記憶を呼び覚ます、知識を増やすという行為は意外にも心地よい時間であることに気付かされます。私は職業柄、文章の作成、計算、知識のインプットも行っていて、日曜ぐらいは何も考えたくないと思っていたのですがそうでもなかったのです。そう言えば周りを見渡しても魅力的と思える人は語彙が豊富で、頭の回転が早く、ユーモアのある人ばかりのような気がします。その人たちは趣味や興味のあることなどにも一生懸命に取り組まれています。人生を豊かにするためにいつも考えて生きている人たちばかりです。

人間と獣を分ける基準は考える動物であるか否かだという学者もいますし、「人間は考える葦」という言葉はフランスの思想家パスカルの著書「パンセ」で出てくる有名な言葉です。知識量を増やすことや考えることは人間としては止めてはいけない行為なのです。日曜日にクロスワードをやる心地良さは、人間が本来もっている成長したいという本能的な欲求を満たしているからとも言えそうです。



再生支援の現場においては、借入金が大きいか資金繰りが悪化しているなど表面的な事象が目が行きがちですが、その根本的な要因もやはり「組織として考える力が足りていないこと」だと思えます。利益が出ないやり方を変えることも変えようと思わないのは、考える力や知識が不足しているからです。赤字の企業は獣のようにしたい事をしているだけで考えていないケースが多いのです。そうすると、我々専門家が学ぶべきことはやる気を引き出すコーチングや成果を導き出すファシリテートの技術など考える場や機会を提供することだと思えます。そう考えますと債務償還年数や債務超過の解消年数が金融機関の求める基準に収まっているかどうかなどは重要ではないのです。そんなことしか考えることができない金融機関と専門家が多いことに情けなくりますが、自分はそれも知識として保有しながら、考えて動くことができる有機的な組織をどう構築するかを大事にしたいですね。

## ⑥ ミスと不正の違い コンサルタント 住吉 いずみ

こんにちは、コンサルタントの住吉です。

酷暑が続いたかと思えば、滝のようなゲリラ豪雨、大型台風など天候の変化が目まぐるしいですね。このニュースレターが皆様のお手元に届くのは、ちょうど台風21号が通過した頃でしょうか・・・出来るだけ外出は避け、万が一外出される際はくれぐれもお気を付けください。

さて、今回の題名「ミスと不正のちがいは」は、毎月お伺いしている企業の経営者様とのお打ち合わせ時に議題になった内容です。もちろん皆様も「そんなことは当然だ。」と感じられるかと思いますが、改めて重要性を感じたので、少しお話をさせていただきます。

日々お仕事をしていると、誰でも何かしらのミスをしてしまうことがあります。今まで一度もミスをしたことがないという人は、おそらくいないでしょう。私も「はっ！」とミスに気付いて大慌てすることがあります。ミスが発生した時は「なぜミスが起こってしまったのか?」「どうすれば同じミスを防げるのか?」と振り返って考えることで、原因を追及・分析して再発防止・未然防止に取り組むことができます。何も対策を講じずに同じミスを繰り返すのは別問題ですが、ミスをしたことで新たに学ぶことも大いにあるでしょう。

一方で、不正はどうでしょうか。仕事における不正は、明確な悪意によって行われるものではなく「少くくは良いだろう」「これくらいなら許されるだろう」という小さなきっかけから始まるものだと思います。ほんの小さな不正であっても(そう思うのは本人だけという場合もありますが)、ミスと不正は全くの別物です。なぜなら、不正は本人の「心」によるものですので、再発防止・未然防止のための仕組みや対策を講じることが出来ず、仮に対策をしても表面的に過ぎず、根本的な解決には至らないためです。



冒頭に申し上げた経営者様は、「多少のミスは構わないが不正は絶対に許さない」という信念を従業員に明確に示し、ミスをした場合には原因分析・再発防止策を提示させ、不正をした場合には本人に説明をした上で、処遇に反映させていらっしゃる。これは『言うは易く行は難し』で、実際に中小企業でここまで取り組まれている企業は多くありません。目の前で発生した事象を見て頭ごなしに怒ることなく、関係者に事実確認を行って事象が起こった背景や要因を正確に把握し、場合によっては厳しい判断を下さなければいけません。

経営者様のお話を伺いながら、これは経営者様が従業員の方々を本当に大切に思っているが故なのだと感じました。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル2階

TEL : 0120-34-8776

FAX : 06-7635-8214

MAIL : info@flagship-keiei.co.jp

URL : www.flagship-keiei.co.jp



株式会社フラッグシップ経営 Facebook ページ

「いいね!」お待ちしております。



株式会社フラッグシップ経営 Twitter

@flagship\_keiei にて随時情報発信中!

